



撮影＝齊田 勤
photo by Saïda Tsutomu
東京・浅草の「婦志多」にて

たまき会 (小唄を嗜む会)

小唄の会「たまき会」も今回で113回目になりました。発足は1986年1月。長崎屋創業者の岩田孝八さん、日本経済社専務(当時)の嶋田安雄さん、そして新聞折込広告のオリコミ創業者である斎藤岩次郎さんの3名で小唄を謳う「岩田会」が結成されたのが始まりです。

世話人だった嶋田さんが会場に選んだのが東京・浅草にあった料理屋「たまき」。当会はこのたまきが由来です。しかし、そのたまきが閉店し、次の会場に「一直」を選んだのですが、その一直も建物の老朽化による建て直しで閉店。小芝居の劇場「宮戸座」跡地にある今の「婦志多」へと会場を移しました。発起人の3人の方々は亡くなつてしまいましたが、この会の名前が残したままになっています。

嶋田さんに声をかけられてわたしが入会したのが90年頃。年に3〜4回開催しており、桜ゴルフの佐川社長が世話人として精力的に動いて下さっています。16人の会員(うち休会5人)がメンバーで、老・壮・青、男女が入り混じった和やかな会です。小唄の魅力は3つあります。1つ目は人生を豊かにするこ

と。唄の歌詞、音調、題材など、普段の生活とは全く違う世界に触れることができます。三味線に合わせて花魁との恋を題材にして謳ったり、綺麗な踊りに合わせたりといった通常では馴染みのない雰囲気味わえるので、歌謡曲やジャズなどでは味わえない人生の幅を広げる「粋」があるように思えます。2つ目は健康に良いということです。お腹から声を出すことで「おしゃがれ声のわたしでも「おやつ」と思うほど透き通った声が出る瞬間があります。これがまたとても気持ち良いのです。



前列左から、英正道(元外務報道官、元ニューヨーク総領事、元駐イタリア大使)、佐川八重子(桜ゴルフ代表取締役)、歌田勝弘(日本工業倶楽部専務理事、元味の素社長)、奥野善彦(奥野総合法律事務所所長)、中澤忠義(元中小企業庁長官、元伊藤忠商事副会長、日本倶楽部副会長)
後列左から、井上智治(楽天野球団東北楽天ゴールデンイーグルス取締役オーナー代行)、浅草すず柳(立方)、坂田生子(松下運輸社長)、浅草紫沙(地方)、大竹章裕(W-INDS社長、伝統文化・芸能研究家)